

ライフジャケット、 高齢者施設へ

8月25日、本市が備蓄していたライフジャケット78着を市内高齢者施設に提供しました。

これは、九州などを襲った7月豪雨で特別擁護老人ホームに入居していた方々が亡くなられたことを教訓として「災害時における福祉避難場所提供に関する協定」を締結している高齢者の入所施設のうち、豪雨時に浸水が想定される施設で活用してもらうため提供を決めたものです。

ライフジャケットは、万が一避難が遅れた場合に救助の時間を稼いだり、命を保つ手段となります。皆さんもぜひご家庭での配備を検討して下さい。

《問合せ》防災課 ☎23-11111



▲ライフジャケットを受け取るこのとりに荘の職員

新型コロナ対策認証制度を開始

本市と豊岡ツーリズム協議会、豊岡観光イノベーションで構成する委員会は、新型コロナウィルス対策に関する独自の感染症対策認証制度「CLEAN and SAFE TOYOOKA」を始めました。専門家が監修した感染症対策チェックリストを満たした事業者は、認証ポスターを店に掲示することができ、認証済み事業者としてウェブサイトにも掲載されます。

まち全体で衛生意識を高め、本市を訪れる観光客と地域住民、従業員の双方の安心安全を確保し、新たな旅行需要にも応える観光地を目指します。

《問合せ》豊岡観光イノベーション ☎21-9002



▲「CLEAN and SAFE TOYOOKA」ロゴマーク

市政 ニュース

〈主な市政の動き〉

【8月】

17日・第1回豊岡市議会全員協議会

24日・豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画「市民説明会（9月11日）」
27日・第2回豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会
28日・市議会定例会開会（）

9月29日

30日・市民総参加訓練

【9月】

4日・全市立小中学校で新型コロナウイルス感染症対策授業実施（11日）
6日・おんぶの祭典 稽古堂コンサート
9日・第1回豊岡演劇祭（9月22日）



※掲載している情報は編集時点(9月14日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。

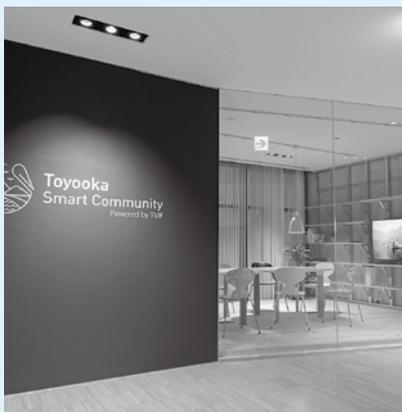
「B-room」開設

本市とトヨタ・モビリティ基金は、人を幸せにするスマートコミュニティの実現のため「豊岡スマートコミュニティ推進機構」を5月7日に設立しました。

この度本庁舎2階にその活動拠点（通称「B-room」）が完成しました。ここは官民の組織の枠を越え、そのアイデアに共感した人が気軽に立ち寄り、新たな相乗効果を生み出し、集う人みんなが団結してプロジェクトを推進していくための部屋です。

この部屋から新しい働き方の「大交流」が生まれていくように取り組んでいきます。

《問合せ》大交流課 ☎21-9081



▲公式な「A面」の組織や仕事だけではなく、個人的関心の「B面」でつながるという意味で名づけられた「B-room」

赤ちゃんと一緒に

楽しめる演劇！

8月17日から24日、城崎国際アートセンターで乳幼児と大人を対象とした舞台芸術に関わる人たちのネットワーキングを目的とした「第1回アジアベイビーシアターミーティング」を開催しました。アジア6カ国から計19人の研究者らが参加しました。関連企画として21日に子育て総合センターで赤ちゃんとその家族に向けて、小作品を上演。コウノトリと城崎温泉の1日がテーマの作品で、音や光の変化、俳優の動きに赤ちゃんたちは興味津々。人生で初めての芸術体験、いかがでしたか？



▲光と音の世界にくぎ付けになる赤ちゃんたち

《問合せ》城崎国際アートセンター

☎32-3888

中貝市長の徒然日記 ⑧

対話する力

今回は、演劇の話です。演劇は、既に教育でも役割を果たしています。豊岡のすべての公立小学校6年生と中学校1年生は、演劇の授業を受けています。コミュニケーション能力の向上が目的です。

なぜ、演劇で？

コミュニケーションは、双方向の営みです。自分の考えを述べるだけでは足りなくて、相手の球を受け取る必要があります。その受け取る能力のことを「共感力」と言います。

英国では、共感のことを「自分で誰かの靴をはいてみる」と言うのだそうです。

例えば、目の前の障がいのある人の靴をはいてみて、その人が世界をどのように見ているのかに思いを寄せてみる。仮に相手の話と同感できなくても、なぜこの人はそんなことを言うのだろう、とその人の立場に立って想像してみる。キャッチボールは、そこから始まります。

では、なぜ、演劇で共感力が

身につくのか？ ぼくたちは、こんな風に説明しています。もし、いじめっ子がいじめられっ子の役を本気で演じたら、その子にどのような変化が起きうるか？ 子どもたちが一緒に演劇を作り、演じる過程で、異なる他者への想像力が育まれるはず。他者への想像力が身につくと、相手に届く表現力も育ってくるはず。

共感に基づく1対1のコミュニケーションを、対話と言います。それは、自分が言いたいことを話すだけの「おしゃべり」とは異なります。

今後、世界はますます小さくなります。否が応でも、子どもたちは、ぼくたちよりもはるかに、異なった価値観を持つ人々と交わり、関わり、共に暮らすことになります。その中で、腕力やお金の力で相手を屈服させるのではなく、協働して共に生きていくのだとすると、対話する力はとても大切になります。それは、子どもたちがこれから多様性の海を渡っていく上で、不可欠な能力なのだと思います。